

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

津久井城跡測量調査の研修・ 発掘調査講習会への参加報告

(1) 津久井城跡測量調査の研修について

相模原市教育委員会が主体で、文化財保護課・博物館・神奈川県公園協会の共同調査です。

第1回：10月19日 公園研修棟で全体会説明後、公園歴史ガイドの皆様が森のステージ測量地点の現地確認と、根小屋地区を一周し、時代に合わせた丁寧な歴史ガイドに感銘。

第2回：10月27日 同地で津久井城の概要歴史編・考古編の詳細な説明がありました。

測量のポイントは

- ・大きな地形を見て・微細な地形を見逃さず
- ・昔の世界をイメージしながら

第3回：11月16～18日 小倉ゴルフ場跡地で平板測量実習。野帳に『正確にメモ』の大切さ・BM(基準点)・EL(眼高)・アリダード(平板測量器具)等の用語に戸惑いながら、距離、高さ等の『読値』を野帳にきちんと書き込む。

測量調査

3回の研修後津久井城森のステージより西側の曲輪にて11月29日～12月10日の間、調査員の参加日程に基づき測量調査を実施。

今後は、年明けに引き続き講習会や発掘調査研修を行い、3月博物館での展示準備等が予定されています。



津久井城の曲輪
を平板で測量

目次

- ① 津久井城跡測量・発掘調査講習会参加報告
- ② 『遠野物語』を旅して
・田名蚕影山和讃を聞く
- ③ 下溝堀之内の歴史 溯るか？ 一板碑発見
・吾妻鏡を読んで
- ④ 文化財マップ紹介～旧相模湖町周辺～
・文化財保護課からのお知らせ

(2) 発掘調査講習会について

発掘調査の講習会が津久井城跡荒久地区遺跡群発掘調査地で、11月9日～11月10日に行われ、参加しました。

講習単位は4単位(1単位半日)で、

- 1.埋蔵文化財の保護と発掘、発掘調査の準備
- 2.発掘調査の実施
- 3.発掘の技法
- 4.土層、遺物の採集方法について

実技の場所は説明会当時に比べて進行し、土器・石器の最新情報の説明がありました。



移植ごてで慎重
に掘り下げ中

11月16～18日の午前中に市民調査員として参加し、ジョレンで精査・遺物取上げ・写真撮影の手伝い・石器の洗浄等の体験ができ、ご指導いただいた方々に感謝を申し上げます。

(4期生 村上)

『遠野物語』を旅して

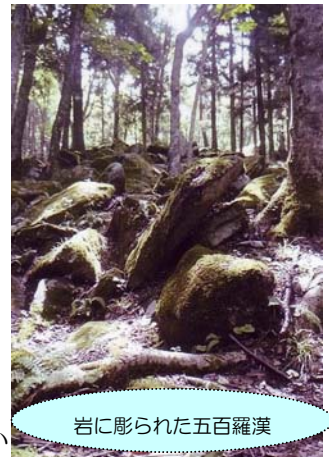
遠野の人、佐々木喜善の話を民俗学の祖、柳田國男が聞き書きをした『遠野物語』が刊行されて今年で百年になるそうで、それを記念して、各地で様々な催しが開催されました。そこで、私たち2期生女性で創った「さくらの会」の有志で、遠野まで、足を延ばすことになりました。どうせ行くのなら「遠野まつり」に合わせてと、意見も一致したのです。

遠野駅周辺には「百周年」の“のぼり”があちこちに並び、商店の店先には祭りの提灯が下がり、お囃子の音が聞こえて来て、いやおうなく祭り気分を引き込まれました。

日本のどこにでもある田園風景ですが、そのさりげない風景の中に膨大な言葉が眠っているのが遠野。『遠野物語』の中には「むかしあるところ」ではなく、「いつ、どこで」があり、柳田國男は「是 目前の出来事なり」と書いているように、なぜか、不思議な気分させられました。当時の山里には、古代からの神秘が生きていて、とりわけ夜は神々や妖怪たちの時間で、闇に閉ざされた世界、異界だ

ったのでしょうか。ザシキワラシ、山男、オシラサマ、カップの神や妖怪。また、「路傍の石塔の多きこと諸国その比を知らず」とあるように今でも町の至る所に昔のままの石塔を見かけることができました。特に、江戸時代に大飢饉の犠牲になった人々を供養する為に岩に彫ったという「五百羅漢」は数の多さもさることながら、思わず息を呑み込みました。

「遠野まつり」のクライマックス 夜の郷土芸能共演会は、南部ばやし、八幡神楽、鹿の角の付いた面をかぶって舞うしし踊りなど、駅前通りを所狭しと景気よく、あふれんばかりの見物人を前にして、それは見事でした。たくさんの思い出を仕舞い込んで、さて、つぎはと楽しみは続きます。



岩に彫られた五百羅漢

(東部班 渡辺)

こかげさんわさん 田名蚕影山和讃を聞く

田名堀之内自治会館の東隣に、養蚕の神様蚕影山の小祠があります。明治末期に筑波の蚕影神社から分霊を勧請したもので、養蚕が盛んだった相模原で最も流行った神様です。

田名蚕影山では春秋2回の例祭に御神体(舟に乗った金色姫の木像)が開帳され、和讃が奉納されます。10月17日(日)の例祭に西部班有志で蚕影山和讃を聞く機会を得ました。自治会館内の和室で、10名ほどの年配の女性たちによって、鈴の音が流れるなかで「^{りん}婦命頂礼、^{きみょうちようらい}日の本の蚕の初めは・・・」と和讃が唱えられ、和やかなうちにも講中の皆さんの篤い信仰心に胸を打たれました。

和讃の内容は金色姫の伝説であらすじは、イン



和讃の奉納

小舟に乗って出国し、やがて日本の筑波に漂着して養蚕を伝えたというものです。筑波の蚕影神社の縁起(「蚕影神社御神徳記」)にはより詳細に書かれているので、田名蚕影山和讃は筑波から伝えられたと考えられます。しかし、金色姫伝説は、永禄元年(1558)の写本を初出に、養蚕が盛んになった江戸中期以降「庭訓往来抄」などの寺子屋の教科書や「養蚕秘録」などの養蚕指導書によって広く知られていたもので、必ずしも断言できません。

相模原市内の養蚕が殆断絶しようとしている現在、養蚕にかかわる文化、信仰は急速に失われつつあります。田名蚕影山和讃は貴重な文化遺産として永く存続させたいものです。

(西部班 嶋田)



金色姫木像

ドに生まれた金色姫が継母のいじめを逃れて

下溝堀之内の歴史が百五十年溯るか

平成 22 年 1 月 13 日、天応院住職西野和男氏が、下溝堀之内の山中貞心神社跡地にて板碑を発見しました。手の平大の板碑の一部です。

当地は少なくとも江戸後期から平成 21 年まで山中貞心神社が建てられていた場所でした。神社は、下溝井上一族の守り神として、平成 21 年 10 月 10 日移築新装なったばかりでした。その土地整理、耕作中に石のかけらとして、耕作地の隅に、他の小石、コンクリート片と共に、黒土に覆われ積み上げられていたそうです。

板碑は「応永十三」(1406)と読む事が出来ます。下溝堀之内はかねてより、平安後期、この地を治めた豪族の住まいが有り、後に貞心尼(不詳~1588)が、夫山中大炊助と住んでいたと言われています。貞心尼は小田原北条四代当主氏政の弟、八王子城主氏照の一人娘です。その貞心尼時代より約 150 年、時代がさかのぼったと言う事です。

応永十三年とは、室町時代の鎌倉公方三代、足利満兼の時代です。満兼の父二代氏満が、相模原市新戸の長松寺に寺領を寄進した文書(応永三年(1396))が、現在も長松寺に伝来され、この文書は、相模原市域で現存する最も古い文書であると言う事です。この寄進より 10 年後の板碑であり、下溝堀之内の地に何びとが暮らしていたのでしょうか。



応永十三年と思われる板碑

板碑の考証は、次にゆずるとして。まずは速報、速報。

(南部班 井上)

あづまかがみ 吾妻鏡を読んで

徳川家康も愛読したといわれる鎌倉時代の代表的な史書『吾妻鏡』は、関東の歴史を語り、後世の鏡とする意味で『東鑑』と書かれることもあります。

本書は、頼朝の挙兵(1180)から將軍宗尊親王(1267)の帰京までの鎌倉幕府の事跡を、編年風に和様漢文体(吾妻鏡文体)で記されています。

全 52 巻で構成されていますが、見方としては、次のとおりです。

- ・ 北条氏の私的私家記録との説もあるが、幕府の公式記録と見られている。
- ・ 編さんは日記体であるが、後世に編さんされたものである。
- ・ 北条氏の立場を考慮した曲筆や意図的な排除、隠蔽、誇張も指摘されている。特に頼朝の晩年や北条泰時の死の時期の欠巻は偶発的な散逸ではなく、北条氏擁護の関わりから編さんが困難で未完成とされている。

流人から日本初の武家政権を打ち立てた頼朝は、征夷大將軍になってから 7 年後に没してしまいます。吾妻鏡には頼朝晩年の記録が欠落していて、死亡原因など詳しい経緯には不明な点が多い。北条政子の妹の夫稲毛重成が亡妻の追善のため相模川に橋をかけ、その供養の帰路に落馬したと一般的に伝えられていますが、一方では毒殺ではないかとの説もあります。

当時の世相からすると、もしや?と疑いの目を向けたくもなりますが、果たして真相は如何に……。永遠のなぞとして現代人の興味をそそる歴史の一事であります。



頼朝落馬の伝承が残る
旧相模川橋脚(茅ヶ崎)

(北部班 土居)

津久井地区文化財めぐりマップ その2

今回は、前回に引き続き、橋本から津久井街道（国道 413 号線）沿いにある旧相模湖町内の文化財をご紹介します。

マップ④：寸沢嵐石器時代遺跡

「津久井消防署」バス停近くの細道を上ると、川原石を組んだ炉跡のある縄文後期の敷石住居跡があります。相模川沿いには多くの遺跡が発見されており、当時の津久井地域は気候もよく縄文人に最適な自然条件がそろっていたのです。

マップ⑤：正覚寺の五色ツバキ

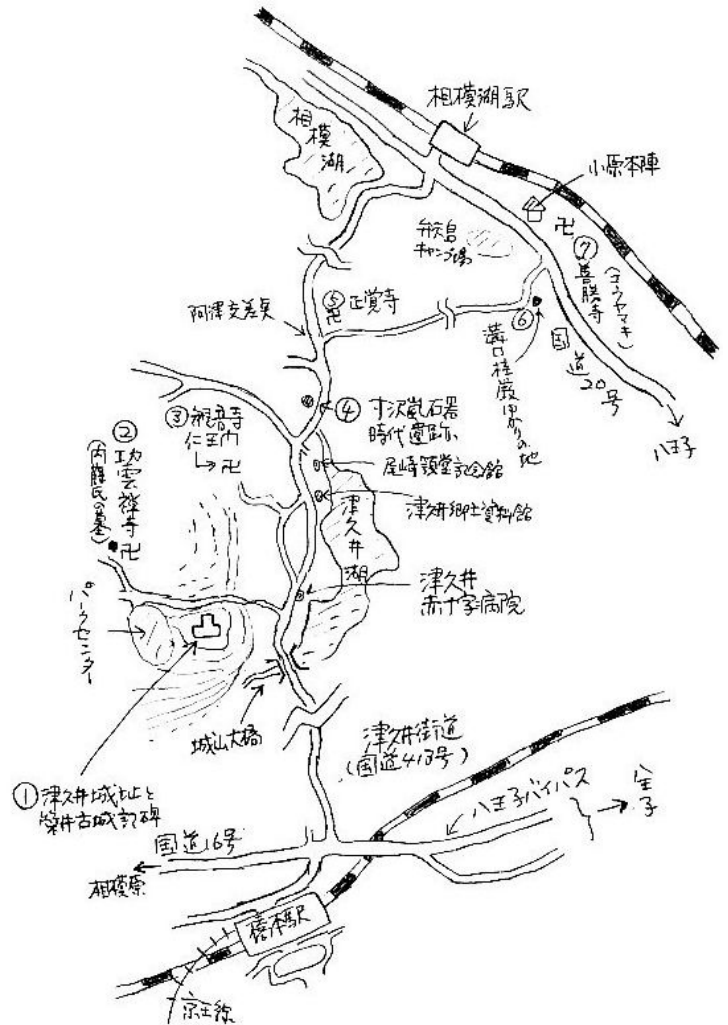
三ヶ木→相模湖駅のバス停「相模湖林間公園入口」の前方右手に「俳句寺」として有名な正覚寺があります（「臨済宗・建長寺派 正覚寺」の大きな石碑が目印）。境内に市登録天然記念物「五色ツバキ」があります。

マップ⑥：溝口桂巖ゆかりの地

三ヶ木・桂橋経由→相模湖駅のバス停「県立やまゆり園」から、旧道を相模湖方向に徒歩 5 分、旧道沿い右側（北側）に延々と続く立派な石垣があります。それが幕末から明治に活躍した当地「千木良」生まれの漢学者溝口桂巖の屋敷跡の一角です。

マップ⑦：善勝寺のコウヤマキ

甲州街道（国道 20 号）沿いの神奈中バス停「千木良」から弁天島温泉・天下茶屋の看板を正面に見ながら進むと、右手に善勝寺入口に出ます。市の天然記念



物である古木「コウヤマキ」は、正門をくぐった右手にあります。

「小原宿本陣」や「弁天島キャンプ場」もすぐ近くですので、ついでに立ち寄ってみては如何でしょうか。

（津久井班 久保）

文化財保護課からのお知らせ

文化財展・民俗芸能大会を津久井で初公開！

文化財研究団体、民俗芸能保存団体が日頃の活動を発表・披露する相模原市文化財展と民俗芸能大会を初めて津久井地域で開催します。ぜひ足をお運び下さい。

- ・文化財展 日時：平成 23 年 2 月 18 日～20 日 場所は津久井中央公民館
 - ・民俗芸能大会 日時：平成 23 年 2 月 20 日（日）（詳細は広報さがみはら 2/1 号掲載予定）
- *文化財展は 1 月 28 日（金）～30 日（日）にあじさい会館でも開催します。

*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは次の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ → 観光・文化（一覧を表示） → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371

